

アート・フォー・コミュニティ 2018年度 報告書



認定NPO法人 あっちこっち

芸術をもっと身近に

芸術で世の中をさらに楽しく元気に



認定NPO法人あっちこっち

理事長 厚地 美香子
あっち みかこ

当法人は、多くの方々に本格的なクラシック音楽や美術、ダンス等を身近に親しんでいただくことで、日常生活をより楽しく過ごしていただくことをモットーに、ここ横浜を拠点として活動을続けてまいりました。2011年の東日本大震災被災地支援をきっかけに誕生した当法人は、多くの方々のご協力や賛同を得ることができ、現在では、学校、介護施設、地域コミュニティ、文化施設等へと活動の場を広げております。発足以来7年間で計200回以上のコンサートやワークショップを皆様にお届けすることができたのは、ひとえに支援者、関係者の皆様のご支援の賜物と感謝の念に堪えません。

さて、私たちは、芸術をお届けする活動を続けてきた中で、「芸術をもっと身近に、芸術で世の中をさらに楽しく元気に」するためには、何よりもまず、主体的に活動できるアーティストの育成が大切だということに気づきました。特に、コミュニティにおける芸術活動においては、アーティスト自身が主体的にコミュニティのニーズをとらえないと、コミュニティのみなさまにご満足いただけるような成果を得ることはできません。

そこで、生まれたのが本プロジェクト《アート・フォー・コミュニティ》（以下AFC）です。AFCでは、アーティスト各々が自身の強みを、コミュニティが解決したい課題にどのように生かすことができるのかを模索しながら、協働のありかたを探ることを目的としています。AFCは私たちにとって、初めてかつ挑戦的な試みでしたので、みんなで迷ったり、悩んだり、時には本音でぶつかりあったりもしながら、手探りで進めてまいりました。そんなAFCの1年の軌跡をまとめたのが本報告書です。まだ、始動したばかりのAFCですが、このように1年をふりかえることで、これからの方向性や挑戦したいこと、課題などがいろいろと明らかになって参りました。次年度以降も、AFCを通じて、多くのアーティストとコミュニティが結びつき、成果を挙げられるように邁進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本プロジェクトは、横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2018の助成により実現しました。また、AFCは多くの方々のご支援に支えられてきました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。私たちは、「芸術は世の中を変える力がある」と信じて、活動을続けてまいりたいと存じます。これからも、私たちの活動を見守っていただけましたら幸いです。

協働パートナー:

NPO法人CRファクトリー

五井 洸 利明
ごいぶち としあき

外崎 恵子
とのさき けいこ

体験した人の感動、コミュニティの変化、アーティストの成長と、関わる人すべてに価値が届けられることを志向した、地域社会での「協働」のあるべき姿を追求している素晴らしいプロジェクトだったと思います。アーティストのみなさんにとってはかなりの回数の「ふり返し」があったと思いますが、しっかりと真剣に向き合ってくださいました。どんな分野においても、これこそが継続的な成長・学習を助け、未来に向けて行動を高めてくれる普遍的な習慣です。ぜひ今後も、時に立ち止まり自分を見つめ直す時間を大切にしてください。

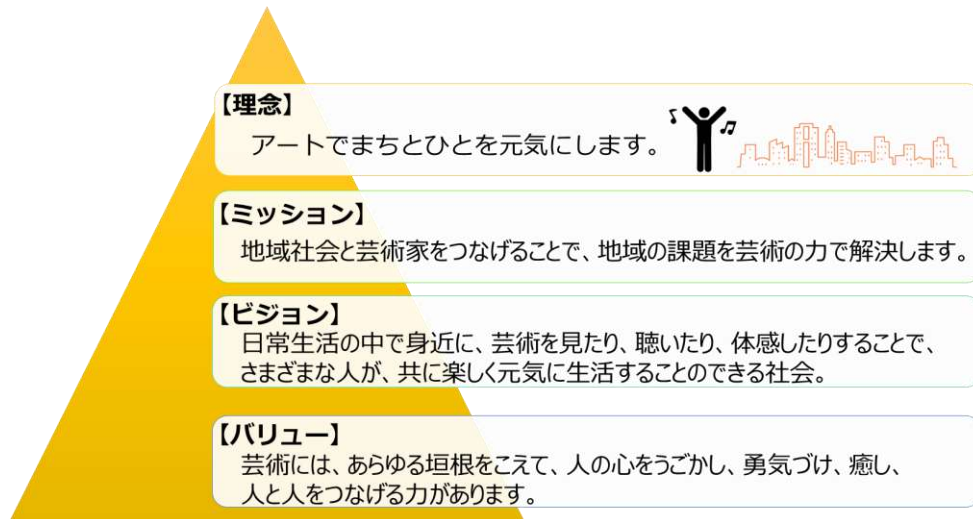
目次

- 1 あっちこっちについて ～活動理念・沿革～
- 2 事業展開
- 3 AFCについて ～企画背景～
- 5 AFCについて ～プロセスと成果目標～
- 6 AFC実施例① ～みなとみらい駅ナカ祭実行委員会～
- 8 AFC実施例② ～キッズコネクション～
- 10 AFC実施例③ ～ライフデザインラボ～
- 12 AFC実施例④ ～かいじゅうの森ようちえん

わたしたちが目指すもの

当法人は、東日本大震災被災者支援のための『カフェ・コンサート』事業を皮切りに、日常生活における芸術体験を通じて、人と人の間の絆を生み、育む活動をしてまいりました。音楽や美術、ダンスといった芸術は、誰もが、各々の状況に応じて楽しむことができる、という特性があります。このような特性を活かした芸術体験は、多様な人々が共に集い、過ごし、交流する場を提供するのに適しているだけでなく、柔軟な発想や新しい視点を生み出すきっかけともなります。私たちは、芸術が提供する価値を最大限活用して、さまざまな「ひと」が生き生きと楽しく生活する魅力的な「まち」を作り出すのに貢献します。

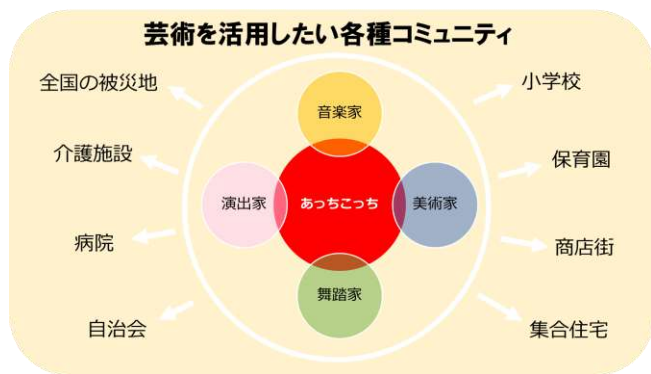
活動理念



沿革

- 2011年8月 クラシック音楽マネジメント会社KAJIMOTOにて、コンサート企画運営等幅広いマネジメント業務に関わってきた理事長厚地が、芸術による社会貢献活動を目指して2010年7月にKAJIMOTOを退職後、「芸術で社会貢献を考え、実行する市民団体あっちこっち」を設立。東日本大震災被災地復興支援のための『カフェ・コンサート』事業開始し、現在に至る。
- 2013年8月 NPO法人あっちこっち設立
- 2014年1月 介護施設での『カフェ・コンサート』事業開始。
- 2015年5月 横浜市芸術文化教育プラットフォームの学校プログラムコーディネーターに任命され、現在に至る。
- 2015年5月 オーストラリアのアート団体「ポリグロット劇場」と東日本大震災被災地である宮城県南三陸町の小学校と地域の高齢者をつなぐワークショップを協同開催。
- 2015年7月 横浜市の国際教育音楽祭MMCJの運営を担当。
- 2016年6月 認定NPO法人に指定される。
- 2018年3月 オーストラリア「ポリグロット劇場」と美術・音楽・舞踏を融合したワークショップ「ペーパープラネット」を、宮城県南三陸町の町内全小学校とベイサイドアリーナで開催。
- 2018年4月 若手アーティスト育成および地域活性化を目指す『アート・フォー・コミュニティ』事業開始。
- 2018年11月 オーストラリアのアーティスト集団と当法人アーティストの協働による、カラオケをテーマにした体験型イベント『The KARAOKE Project』を開催。

わたしたちは、芸術を必要とする各種コミュニティにアート体験をお届けします。



私たちは、芸術が持つ《あらゆる垣根をこえて、人の心をうごかし、勇気づけ、癒し、人をつなげる力》を信じて、芸術を必要としている場所や人々、コミュニティなどに直接出向いて、本物のアート体験をお届けすることで、ビジョンを実現したいと考えています。

これからも、芸術のもつ価値を全国各地、あっちこっちを必要とする場所にお届けするとともに、芸術の持つ力を発信し続けます。

事業展開

あっちこっちの活動理念を実現する為に、おもに5つの事業を展開しています。

絆カフェ・コンサート

介護施設等、外出が難しい方へカフェコーナーと共にお届けする参加型コンサート。

被災地支援カフェ・コンサート

被災地にコンサートとボランティアによる手作りお菓子を届ける事で、被災地を応援する活動。

親子向けワークショップ

アーティストが作品を作る過程を親子で一緒に追体験していただく総合芸術ワークショップ。

国際交流事業

日本と海外アーティストのコラボレーションにより、各種イベントを共同制作する事業。

アート・フォー・コミュニティ事業

アーティストが各種コミュニティの課題解決に適したイベントを企画制作する地域振興事業。

ミッション

地域社会と芸術家をつなげることで、地域の課題を芸術の力で解決します

手段

若手アーティストと地域をつなぐ仲介をします

若手アーティストのプロデュース能力を向上させます

事業

絆カフェ・コンサート

被災地に音楽を届ける活動

子どものためのワークショップ

国際交流事業



アート・フォー・コミュニティ事業



あっちこっちのビジョンを実現するために必要なこと

ビジョン

あっちこっちが目指す社会像

日常生活の中で身近に、芸術を見たり、聴いたり、体感したりすることで、さまざまな人が、共に楽しく元気に生活することのできる社会

私たちは、あっちこっちが目指す社会像を実現するためにはどうしたらよいのかを考え続けてきました。あっちこっち所属の優秀な若手アーティスト達の芸術スキルを活用して、地域振興やコミュニティの課題を解決するのに必要なことは何か。

その結論が、アート・フォー・コミュニティ事業（AFC）の開始につながりました。どのように私たちがAFCをスタートするに至ったのかについてご説明します。

企画背景

あっちこっちは、これまで、多くのコミュニティの皆様からはアート活用の難しさ、若手アーティストからは地域活性化における様々な悩みを聞いてきました。



アートを活用した地域活性化に興味のある

コミュニティ

- ✓ 具体的な方法がわからない。
- ✓ 過去にうまくいかなかった。
- ✓ そもそもアートで何ができるかわからない。

成果をあげるには？



芸術スキルで地域活性化に貢献したい

若手アーティスト

- ✓ もっとコミュニティのニーズを反映した企画をしたい。
- ✓ 成果を挙げるために、芸術スキル以外に身につけるべきものを模索中
- ✓ アートで解決できる地域課題の可能性を広げたい。

大きな課題は、コミュニティと若手アーティストの間のコミュニケーションギャップや、イベントやワークショップなどを協働してつくりあげていく、という意識の希薄さにあるのではないかと私たちは考えました。そこで、あっちこっちが、両者の間に入り…



コミュニティ

- ✋ コミュニティ特性に合致したアーティストを**マッチング**します。
- ✋ アーティストとコミュニティ間のコミュニケーションを促し、**見守りとサポート**をします。
- ✋ 豊富な実践例を参考に、イベント**企画・制作サポート**をします。



あっちこっち

若手アーティスト

- ✋ コミュニティの**ニーズ**を把握し、**企画に反映する支援**をします。
- ✋ イベントの企画・制作から実践に向けた**プロデューススキル**を身につける機会や教育の場を提供します。
- ✋ アートによる地域振興実例等をもとに、**企画・制作の支援**をします。

あっちこっちが
・両者間の**仲介**。
・アーティストの**プロデューススキル向上**を**サポート**。
することで、課題解決を目指す。



事前ワークショップ開催

1. あっちこっちと所属アーティストの強みを整理。
2. ビジョン実現にアーティストが貢献できる方法（活動内容）をブレインストーミング。
3. 2.の活動内容をカテゴライズ。

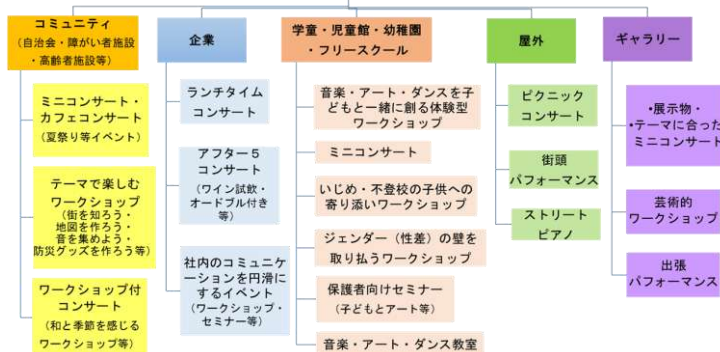
横浜で人とまちをつなぐプロジェクト始動



AFC実施コミュニティ

AFC事業に賛同いただけた地元中区のコミュニティへ、あっちこっちより事前に協力依頼をし、4つのコミュニティに決定

横浜で人とまちをつなぐプロジェクト



2018年度AFC実施コミュニティの決定



AFC成果目標

各コミュニティが抱える
様々な課題

アートが提供する
様々な価値

コミュニティを
持続的に**活性化**する
方法を共に探る

プロセス

AFCスタート

- あっちこっちが、
- ・AFC実施対象コミュニティを事前決定。
 - ・AFC参加アーティストを募集。

みなとみらい駅ナカ祭
実行委員会

キッズコネクション

かいじゅうの森
ようちえん

ライフ
デザインラボ

キックオフミーティング

あっちこっちによる、アーティストへの事前講習を実施。プロデューサーとしてのスキルやノウハウを座学にて学習。



キックオフミーティングの様子1



キックオフミーティングの様子2

チーム分け

- ・アーティストを4つのコミュニティ毎にチーム分け。
- ・これ以降、イベント実施に向けてチーム毎に活動開始。

イベント実施

- ・4チーム毎に、イベントは3回実施。
- ・イベント実施毎に、あっちこっち立会いの下、アーティストとコミュニティの振り返りの会を3回実施。次回イベントへの改良に活かす。



振り返りの様子

気づき

イベント⇒振り返り⇒次回イベント改良に反映⇒次回イベント…の流れで行うことが、コミュニティとアーティストの対話を促して互いの信頼感醸成に役立ち、ひいては同じ土俵で課題解決にむけて協働するチームビルディングに効果的だということが明らかに。

アートを活用した地域活性化に興味のある
コミュニティ



- ✓ アーティストに要望を直接伝えないといけないんだ！
- ✓ 直接交渉することで、一体感が得られる！

芸術スキルで地域活性化に貢献したい
若手アーティスト



- ✓ 直接対話を通して、ニーズをより正確に把握できる！
- ✓ 直接対話により、よりアイデアが活性化されアートの奥行きが広がる。

みなとみらい駅ナカ祭実行委員会
の
ねらい

ふだんは閑散としている みなとみらい駅
コンコースを活用して、横浜市中区・西区
をつなげるようなイベントを開催したい！

イベントテーマ

国際都市ヨコハマを意識したつながり
「WA(話) WA(和) WA(輪)」

参加アーティスト

ピアニスト3名

青木智哉、金子泉、降旗真理子

ダンサー1名

Cユ・タツヤ

実施レポート

回数	開催日・場所		様子
第1回	開催日	8月18日	 ・ 話・和・輪のコンセプトを打ち出した企画、浴衣で盆踊りと地域の人たちの販売による駅活性化をねらう。 ・ 新聞やニュースへの掲載による広報。
	場所	みなとみらい駅コンコース	
第2回	開催日	10月28日	 ・ 子供対象のワークショップ、大人を対象としたコンサートイベント
	場所	みなとみらい駅コンコース	
第3回	開催日	12月2日	 ・ 地元アーティスト同士をつなげることで、地域を盛り上げる。
	場所	みなとみらい駅コンコース	

～コミュニティからのコメント～

- ・ 音楽のジャンル、領域を超えられた！！
- ・ 自分が好む以外の音楽を雑音に感じなく受け入れられたことに驚きを感じている。
- ・ 音楽の自由度を認識した、音楽はバリアフリーであると感じた。
- ・ アーティストの皆さんとお友達になれた。
- ・ 3回シリーズでそれぞれ特徴があってよかった。
- ・ 様々なジャンルの方々が繰り返しのコミュニケーションを通してイベントを盛り上げていけていた。

1. 「アート之力」はどのように「コミュニティの活性化」に貢献できたか

～コミュニティの理念・想い・要望～

WAWAWA(話・和・輪)アートの力を通して、みなとみらい駅コンコースを活性化。
日本文化をいろんな世代、いろんな国の人に体感してもらう。
人と人のつながりを通してコンコースを活性化。
みなとみらいの地域の人を巻き込む。

～全3回のイベントを通したねらい・実践したこと～

パフォーマンス時にコミュニケーションを駅利用者とする。
空間演出（アップライトピアノを駅に置く、美術家石河さんの作品を掲げる、パーテーションによる空間構成）、衣装（浴衣、ハイカラ）によって、ビジュアルの質を高め、駅コンコースの価値を高めた。
地元アーティスト同士をつなげることで、地域を盛り上げる。
地域の飲食や衣服の店舗出展で、日本にきている外国人とみなとみらいの地域の人をつなげ、インバウンドをねらう。

～全3回のイベントを通したコミュニティにとっての成果、見えてきた課題～

小田原の高校生が企画した飲み物やパンを来場者に販売し、社会経験の場を提供でき、メディアで放映された。
六手連弾が好評だった。
観客が自分の好む音楽以外を雑音に感じることなく受け入れられた。
音楽のジャンル・領域を超えられた。
不特定多数が通行する会場では、来場者のターゲットをしっかりと設定しなくてはいけないことを学んだ。
パブリックスペースの駅コンコースで有料イベントをできたこと。

2. アーティストの皆さんがどのように成長したか

～AFCにおける学び・気づき、前後での心境の変化、成長したと感じる点～

<金子>これまで楽器や音響など、環境が整っている場で演奏をしてきたので、ゼロから舞台を作る大変さを学んだ。音響の手配や舞台設営にはコミュニティの皆さんのサポートが必須で、アーティストとコミュニティとの連携がイベント成功の要になると実感した。
<青木>セルフプロデュースとは言え、イベントに携わる一人一人に気を配り、結果として自分が輝くことに繋げるということ。関係者皆を尊重する事が、成功に繋がる。
<降旗>今まで自分が演奏してきた演奏会や仕事での演奏の際に、いかに整えられた環境で演奏だけに集中出来ていたかを痛感した。
<Cユ>回数を重ねることで、互いの役割や良いところを把握し合えたので、その過程を恐れることなく積極的にコミュニケーションする。

～今後、自身やイベントをプロデュースする際に継続したいこと、新たにチャレンジしたいこと～

<金子>あまり知られていないけど素晴らしい音楽はたくさんあると思う。今回のように多ジャンルのアーティストとコラボレーションしたり、知られていないけど自分が良いと思う音楽を公共の場で発信していきたい。ダイレクトな反応がありそうな投げ銭ライブに挑戦したい。
<青木>コミュニケーションを多くとり、相手の本心に寄り添って任務を遂行していく。
<降旗>音楽イベントやコンサートを企画する際、演奏だけにフォーカスするのではなく、ストーリー性、会場の見せ方、選曲など、様々な関わる事柄にこれからもっと拘っていきたいと思った。
<Cユ>とても素晴らしい仲間と実行委員の方に恵まれたので、このように意識を高め合い、信頼のできる関係性をつくれるように、コミュニケーションをとるようにする。



参加アーティスト

ソプラノ 1名
佐藤 瞳

クラリネット 1名
加藤 亜希子

キッズコネクション
の
ねらい

2018年にできたばかりの、横浜市中区の多機能型障がい児通所施設で、地元の大和町麦田町の人たちとこどもたちをつながたい。

イベントテーマ

ふだん伝えられない人へ
「ありがとう」の花を咲かせよう！

サクソ1名
鈴木 研吾

実施レポート

回数	開催日・場所		様子
第1回	開催日	9月29日	  ミニコンサートの締めくくりとしてテーマ「ありがとうの花を咲かせよう」のコーナーを設けた。歌はもちろん、歌詞の背景を一緒に考えながら紙に書いたり、言葉で発表して一緒に歌った。
	場所	よりみちハウス	
第2回	開催日	11月10日	  利用者の子どものとのコラボレーション。演奏に合わせてフラダンスを披露（写真左） キッズコネクション代表：沖田さんこと「おっきー」の楽器体験（写真右）。会場が盛り上がった。
	場所	よりみちハウス	
第3回	開催日	12月29日	  イラストを見て曲の背景を想像したり、体を使って音の強弱を感じたり、全身を使って音楽を身近に感じることができた。
	場所	よりみちハウス	

～コミュニティからのコメント～

- ・音楽に興味のある親子を発見でき、この親子イベントを通して交流ができ、保護者との距離が縮まった
- ・地域に知って頂く機会を得た
- ・子供中心に深く考える機会を得た
- ・キッズコネクションは、音楽コンサートをしているような付加価値施設になった
- ・勉強で疲れている子どもたちの癒しになった
- ・歌をうたったり笛づくりをしたり、ダンスをしたりと参加する子供たちの様子がとても嬉しそうだった。

1. 「アート之力」はどのように「コミュニティの活性化」に貢献できたか

～コミュニティの理念・想い・要望～

- ・新しい事に触れる→芸術を身近に
- ・地域の人に活動を知ってもらい、協働を促す→定期的なイベント
- ・保護者の癒しの場に
- ・一人ひとりの大好きでわくわくすること→何でわくわくするか探究
- ・夢中になることを最大限に引き出す
- ・子供ファースト

～全3回のイベントを通したねらい・実践したこと～

- ・子供をとりまく大人たちも一緒にまきこむ
 - ・親がリラックスする事によって子供も笑顔に
 - ・内容を考えるのに際して障がいの有無を考えない
 - ・予想出来ない子供たちの自由度をつくる
 - ・子供が対等である事を考えた共有・共感
- 子供ファーストに考え、障がいを持っていたり、様々な事情を抱えていても、それらにとらわれるのではなく、一人の人間として良い意味で「子供扱い」しない。それらを踏まえて、普段触れることのない「生演奏」を通じて様々な感動・体験・鑑賞を体感してもらう事を意識して準備、取り組みをした。

～全3回のイベントを通したコミュニティにとっての成果、見えてきた課題～

- ・子どもたちの新たな一面の発見
- ・広報を一緒にする事の広がり
- ・ありのままで良いという事を子どもや参加者に伝えられた
- ・一緒に協働するという土台が出来た
- ・子どもたちの新たな一面の発見
- ・地域の方々に知ってもらうにはまだまだ課題が残った
- ・開催する場所を工夫するのもありかも

2. アーティストの皆さんがどのように成長したか

～AFCにおける学び・気づき、前後での心境の変化、成長したと感じる点～

- ・ただの発注と受注ではない。
- ・相手側の立場に立って時には一歩二歩踏み込んで考えていかなければならない。
- ・歌とクラリネットとサクソフォン、未知の編成でどれだけの事ができるか。
- ・演奏だけではなく、さらにどんな演出・構成にしていけるか。
- ・その上で改めて同じ奏者とはいえ、違う人間なんだと、お互いの価値観の違いを認めたり、受け入れたりするのは3回を通しての心の成長につながった。
- ・新たな組み合わせにトライできたことで、今後の活動の幅が広がった気がした。

～今後、自身やイベントをプロデュースする際に継続したいこと、新たにチャレンジしたいこと～

- ・ただ自分がやりたい、というコンサートではなく、その受益者には何を与える事ができるのか、何のためにやるのか、というコンサートをしたい。
- ・色々な角度から研究して可能性を広げたい
- ・依頼を受けた時に次につながるような相手先に立った提案をしていきたい。
- ・臨機応変な対応が出来るよう、様々な人たちの手法から学んで引き出しを増やしたい
- ・出演者全員が共通した最終目標をもって進めていけるよう、本番までの過程を計画的に進めていきたい。

ライフデザインラボ の ねらい

日本大通り沿いのKosha33を活用している
ラボの活動広報と組織の活性化

イベントテーマ

みんなでつくろう
たいけんしょう
たのしょう♪

ソプラノ1名
安川みく

美術家1名
石河美和子

参加アーティスト

フルート2名
檜原いちご、岡田滯

実施レポート

回数	開催日・場所		様子
第1回	開催日	11月4日	 関内外オープンイベントと絡め、Kosha33ライフデザインラボの新作バッグお披露目ファッションショーにフルートの生演奏でコラボレーション、2回のフルート二重奏のミニコンサート、フルート体験とストロー笛オーナメントの工作コーナーを設け、窓にライブペインティングも行った。
	場所	Kosha33	
第2回	開催日	12月6日	 窓に描いたツリーにカッティングシートで作ったオーナメントを貼るワークショップと、ビル内に勤めている方がお昼ご飯を食べた後に聴ける時間に設定したクリスマスソング中心のプログラムのランチタイムコンサートをした。コミュニティの方が積極的に宣伝をしてくださったお陰でたくさんの方が参加した。
	場所	Kosha33	
第3回	開催日	12月20日	 ミニコンサートでは、お昼休憩中のお勤めされている方々や、保育園・幼稚園に通う子どもたちが集まった。子どもたちも歌えるクリスマスソングなどを演奏した。後半はオリジナルのクリスマスカードを大人の工作コーナーと子ども工作ゾーンを分け、それぞれの内容で色とりどりのカードを作るワークショップを行った。
	場所	Kosha33	

～コミュニティからのコメント～

- ・ラボの課題やあり方について考えるようになった
- ・「多様性」を受け入れるにもルールが必要だと知った
- ・主体性を考えるきっかけになった
- ・自分たちがどんな団体なのか明確にする必要性を知った
- ・協働のための要件がわかりつつある。
- ・音楽の力、みんなで作り上げる楽しさを知った

1. 「アート之力」はどのように「コミュニティの活性化」に貢献できたか

～コミュニティの理念・想い・要望～

理念：「主体性市民をはぐくむ」「次がある社会を目指す＝いつでもやり直せる、ということの意味する。失敗しても良い。リスタートを応援できる場」「多様な他者と出会うことで、異なる価値観を得て、次のライフステージでも楽しめる場」

ライフデザインラボに集まる人たちの主体性を大切に、安心して活動できる場づくりと理念に賛同したそれぞれの特技で活動するメンバーの発信の場でもある。また、活動の中で生まれるコミュニケーションの輪を大切にしている。コミュニティの組織についても、団体ではない個々の集まりであり助け合いながら場をつくっている事を理解してもらいづらいという悩みもあった。日頃意見交換や勉強会など、自分の活動を通してどのような場にしていきたいかを模索し探求しているコミュニティである。今回、他団体が企画提案し実現したことは初の試みであった。

要望：関内外オープンイベントと一緒に盛り上げるコミュニティに寄添う企画。参加型の楽しめる企画。コミュニティの運営体制が整っていない中で、手伝ってくださるコミュニティの方の負担軽減。

～全3回のイベントを通したねらい・実践したこと～

ライフデザインラボで活動している方々を応援できるような企画でありたいという願いから、場と活動を近隣の方に知ってもらいきっかけづくりを狙い「みんなでつくろう！たいけんしよう！たのしもう！」といったテーマの企画を考え、提案を繰り返し実現した。

企画イベントの対象者に合わせた企画提案

Kosa33があるビルで働く人・近隣で働く人・地域の人・不特定多数…ランチコンサート・大人向け工作ワークショップ・目で見て楽しめる窓のペイント・参加型ワークショップ

告知方法：チラシ配り・チラシ配送・ネット告知・メール告知など・興味を持てるような窓のペイント
コンサートの時に、必ずコミュニティの説明もできるようこころがけた。

～全3回のイベントを通したコミュニティにとっての成果、見えてきた課題～

今回の成果だけではないが、コミュニティの方々が理念について考えるきっかけとなり、想いを具体的な言葉で共有できるようになってきたこと。

組織力の具体的な課題解決として何をすればよいかも考えるきっかけとなったこと。

窓のペイントは、目隠し効果もあり撤去せずに継続し残っている。

2. アーティストの皆さんがどのように成長したか

～AFCにおける学び・気づき、前後での心境の変化、成長したと感ずる点～

- ・認め合う関係性を築いていく為に、まずは相手に寄添い話を聞き受け入れることが大事であること
- ・困っている。助けてほしい。一人で悩まず仲間を信じ頼ること、任せることが絆を深める近道であること
- ・アイディア力
- ・考える力・普段考えないことをいきなり考えても、答えが出てこない。普段から考える癖をつけなくてはと思った
- ・誰かのためであっても、自分たちも楽しめるものであることを忘れずにいること
- ・自分の想いを素直に伝える時と、深呼吸し言葉を整理して伝える時の見極めが大事であること

～今後、自身やイベントをプロデュースする際に継続したいこと、新たにチャレンジしたいこと～

- ・これまで以上に寄添った音楽を楽しむ空間づくり
- ・他分野とのコラボレーション
→他分野とコラボレーションすることによって新たなアイディアや良さが生み出されるから

かいじゅうの森ようちえん
の
ねらい

園舎をもたず、体験学習型保育で
クリエイティブな人間を育てる

ピアノ1名
岩下真麻

ファゴット1名
星野美香

参加アーティスト

チェンバロ1名
若狭英雄

イベントテーマ

こどもたちに音楽の楽しさを伝えたい！

実施レポート

回数	開催日・場所		様子	
第1回	開催日	10月24日		
	場所	エリスマン邸地下ホール		
第2回	開催日	11月21日		
	場所	本牧地区センター音楽室		
第3回	開催日	12月2日		
	場所	大倉山記念館		

部屋を暗くし音楽を聴く、楽器紹介と楽器体験、音楽鑑賞、リズム遊びのコーナーを入れた1時間の内容。

導入にチェンバロ演奏を置き、音を絵にする・ファゴットを組み立てる・朗読付きで音楽鑑賞するコーナーを設けた。静と動のアクティビティを組み合わせ、移り気な子供たちが集中して取り組めた。

子どもたちも正装、チケット・パンフレットを用意し、影アナウンスも入れたり実際のコンサートの雰囲気を出した。ダンス会も取り入れ、最後にステージで子どもたちが歌った。

～コミュニティからのコメント～

- ・敷居が高いと思っていたクラシック音楽が、子どもたちにとって苦痛なく楽しむ方法があると知った
- ・いつも子どもたちが行っている三溪園でクラシック音楽を聴いた際に「いつも元気なかいじゅうキッズだけれど、クラシック音楽を楽しめるのだ」と思ってもらえた。
- ・こどもたちがくるみ割り人形の曲が好きになり、園でもずっと歌っている
- ・クラシック音楽の楽しさをしって、これから子どもたちも私たちがクラシックコンサートにハレの服を着て行きたいと思っている。

1. 「アート之力」はどのように「コミュニティの活性化」に貢献できたか

～コミュニティの理念・想い・要望～

【理念】

- ・感性豊かな子供を育てる（五感教育）
- ・クリエイティブな人間を育成する
- ・自分で自分のことを決められるようになる
- ・心で感じて、感動できる人を育てたい

【要望】

- ・本物に触れさせたい
- ・新しい異分野の能動的なアプローチを求めている
- ・様々な分野における「本物」の、大人に接する機会にしたい

～全3回のイベントを通したねらい・実践したこと～

【ねらい】

音楽は楽しいということを伝えたい。

【実践したこと】

- ・アーティストの強みである「生演奏」で勝負。
- ・自分たちも心が動く曲選びをした
- ・子供たちが音楽に入りやすくするために演出を加えた
- ・アーティストの自己満足で終わらないようにリサーチしコミュニティに投げかけ、思いを再確認した
- ・園児（対象）をリサーチした

～全3回のイベントを通したコミュニティにとっての成果、見えてきた課題～

【成果】

- ・クラシック音楽を心から楽しんだ
- ・クラシック音楽を聴く喜びを知った
- ・空間をシェアする喜びを味わった
- ・WSに参加して、空間の一部になれた

【課題】

- ・継続的にどうやって子供たちにアプローチするか

2. アーティストの皆さんがどのように成長したか

～AFCにおける学び・気づき、前後での心境の変化、成長したとを感じる点～

★三人共通

- ・アーティストの「やりたいこと」ありきではなく、コミュニティ側の思いや対象をリサーチし、まず「求められているもの」を把握する。その上でアーティストの強みを生かせる「出来ること」を提案することが大切だと学んだ。

～今後、自身やイベントをプロデュースする際に継続したいこと、新たにチャレンジしたいこと～

★三人共通

- ・今回の内容を、様々な世代の方に通用するようにアレンジして内容の幅をもっと学び、どんな反応にも即興で対応できるようになりたい
- ・これを機に、自主企画演奏会をプロデュースしたいと思った
- ・普段組まないような楽器やアートの方とのコラボレーションにもチャレンジしてみたい
- ・営業ができるようになりたい

認定NPO法人 あっちこっち

私たちには、人と人をアートでつなぎ、
コミュニティを笑顔にする力があります。

住所: 〒231-0852 横浜市中区西竹之丸61-5
Tel: 090-1261-1308
Mail: info@acchicocchi.com
URL: <https://www.acchicocchi.com/>

